

## JC用語の基礎知識

1. JC (Junior Chamber) 青年会議所
2. JAYCEE 青年会議所の各個人会員を表すときに使われる
3. L. O. M (Local Organization Members) 各地青年会議所
4. ブロック協議会 (BOM) 各県下の各地青年会議所の連絡調整機関
5. 地区協議会 (DOM) 日本を10の地区に分けた各地青年会議所の連絡調整機関
6. NOM (National Organization Members) 国家青年会議所
7. JCI (Junior Chamber International, Inc.) 国際青年会議所
8. JC 三信条 個人の修練・社会への奉仕・世界との友情
9. 京都会議 毎年1月に京都で行われる全国理事長会議の通称  
京都国際会議場で日本JC会頭の所信表明がある
10. 全国会員大会 毎年10月上旬頃に開催場所を変えて行われる大会  
日本JC総会・各種分科会等が行われる  
水戸JCは2004年度全国会員大会を主管
11. サマーコンファレンス 企業人たるJC会員を青年経済人と称し、経済・経営の諸問題について討論・研究したり、講演会・セミナー等の開催や情報交換をする会議のこと毎年7月下旬に開催される
12. 業種別部会 同業種に従事する会員の集いで、JC活動の横軸としての意義を持つ部会全国組織で現在31の業種別部会がある
13. 出向者 各地青年会議所からJCI・日本JC・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出ていくメンバーのこと
14. We believe・JCPRESS 日本JCの機関紙で、「We believe」の誌名は1999年までは世界人口数に由来し「50億」といい、1964年の創刊当時は「30億」という誌名であった。  
JCPRESSは日本青年会議所新聞の愛称であり、両方とも全会員に月一回配布される。
15. L. D (Leadership Development) 指導力開発一集団と個人の活性化
16. C. D (Community Development) 社会開発一まちづくり地域の活性化 JC活動においてはLDとCDは両輪であるといえます  
またLDとCDのどちらが大切かといった議論もよく聞かれます
17. L. T (Leadership Training) 指導力訓練
18. L. I. A (Leadership In Action) 実践指導力開発
19. J. Q. C (JC's Quality Control) LDのなかの問題発見と分析の手法  
ブレインストーミング・特性要因図・KJ法などの要素も入る
20. KJ法 アイディア発想の手法 別名紙切れ発想法
21. FF法 フリーフレンド法チームの和づくりの手法
22. 創造力開発猛吠訓練 大きな声を出すことを通じて自分を作り変える手法

23. S. M. I 自己をつくりかえる LD の手法のひとつ
24. ロバート議事法 青年会議所が会議に用いる議事法であり、多数者の権利、少数者の権利、個人の権利、不在者の権利、以上 4 つの権利を基本的な原則とした民主的な会議運営方法
25. CD5 サイクル調査（現状把握）・分析（問題の診断）・企画（対策立案）・実施（集団化活動の実践）・評価（活動の評価）の 5 段階で社会開発計画を考える社会開発の手法
26. M. D (Management Development) 経営開発
27. M. I. A (Management In Action) 目標達成プロセスを CHECK, PLAN, DO の基本サイクルで設定した経営開発の手法
28. M. G (Management Game) ゲームを使って期毎に資金繰り表や損益計算書、貸借対照表などを制作し、経営のシミュレーションをする経営開発の手法
29. レクチャー 講師による講義。質疑応答は含まない。知識の系統的な発表であり、聴衆の参加する余地は少ない。
30. セミナー 講師の指導のもとに参加者が集って、討議して進める共同研究のことで、ゼミナールともいう。
31. フォーラム 質疑応答を含む講演。テーマに関する特定の見地からの情報を得ることができる。意見を交換する自由には欠ける。
32. シンポジウム テーマを中心に、複数の報告者より各々の立場から講演形式により報告させ、研究する会議方式。討議はせず、各報告に対する質問、質疑応答は許される。
33. パネルディスカッション パネラー（意見発表者）・による密度の高い座談会議。多くの人が全員討議するかわりに、数名の選ばれた人に自由に討論してもらう形式の会議。
34. フィリップ 66 方式 会議や講座で人数が多い時、全メンバーを 6 人ずつの小グループに分け、「その場委員会」を 6 分間開催して意見を出させる会議方式。
35. バズセッション 会議等で人数が多い時、全員が発言できるような小グループに分けて個人個人の意見を自由に表現させ、その意見を調整し持ちより全員参加の総会を開く会議方式を取る時の小グループによる話し合いの過程をいう。即ち全員に発言を許し会議の結論に貢献させる討論方式で人数、時間に制限はない。
36. ブレーンストーミング メンバーが個々のアイデアや意見を出し合い、その中の刺激作用によってより多くのアイデアや意見を導き出す方法他人の意見の批判などは行わない。
37. ディベート知的討論 与えられたテーマのもと個人の思想、信条に関係なく、肯定側と否定側の双方に分かれて討論をする。理論で相手を説得する過程を競うもので、どちらの意見が正しいのかを争うものではない。
38. コーディネーター 出された意見等を集約し、調整して会議を進行させる担当者
39. アドバイザー パネルディスカッションなどの討議会の際に、会議を進行させるための助言を行う講師のこと。

40. バネリスト パネルディスカッションを行うときに、各分野から出席する数名の意見発表者のこと。
41. 3分間スピーチ 電話1通話の時間内すなわち3分間で自己紹介から始まり、テーマにそったスピーチを完了させるLDの手法。
42. アテンダンス制度 世界会議・全国会員大会・京都会議・ブロック会員大会・総会・例会・委員会等の出席により点数を積み重ねていく制度
43. メーキャップ制度 所属ロムの例会に出席できないときに他のJCの例会に出席すれば所属ロムの例会出席にかえる事ができる制度。要申請
44. チャーターメンバー 各ロムが創立されたときの会員
45. スリーピングメンバー 資格を持ち、活動が義務づけられているのにもかかわらず、その活動及び例会・総会などにも積極的に参加しない会員
46. アクティブメンバー 全体の中の個人・個人であっての集団であることの自覚を持ち、その責任を果たし、社会開発と自己開発に挑戦し、活発に行動する会員
47. アテンダンス 総会・例会・各会合に出席することをいう
48. アジェンダ 理事会や委員会等を運営する時の式次第のこと
49. スポンサーシップ 青年会議所への入会には2名のスポンサー（紹介者）が必要で、スポンサーは入会から卒業まで保証人的立場につき、スリーピング・休会・退会・金銭トラブルに対し責任を持ち、青年会議所を教え、先輩に紹介する責任を負う。この事をスポンサーシップと呼ぶ
50. 居酒屋の青春 酒を酌み交わしながら今日のJC、明日のJC、未来の日本や世界を先輩・仲間と共に語り合う場
51. JCI 1944年12月11日に創設された各国青年会議所の連絡・統合・調整機関で、本部はアメリカ・フロリダ州のコーラル・ゲイブルズにある。公用語は英語・フランス語・スペイン語・日本語の4カ国語
52. JCI World Congress JCI世界会議 毎年原則的に11月第1週に開催地を変えて開かれる会議。次年度の役員・3年後の世界会議開催地等が決定される総会も開かれる